

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		通常砂防事業		路河川名等	(砂)穴山川				
事業毎の通番		3	市町村名	辰野町	箇所名(ふりがな)	沢底(さわぞこ)			
事業概要	事業目的	穴山川は、土石流危険渓流であり、平成18年7月豪雨時には土石流が発生し林道、下流人家および町の水道施設が被害を受けた。また、平成21年8月にも土石流が発生し、町の水道施設が被害を受けている。流域の地質は中～古成層の変成岩で風化により流出しやすい状況となっているうえ、溪岸浸食が進行しており、土砂が流出しやすい状況になっており、現在も土石流が発生する危険がある。このことから砂防えん堤1基を施工し、土石流災害の防止を図る。							
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法				
	関連する事業、計画等	なし							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家17戸、辰野町上水道施設1箇所、2級町道54号線L=200m、林道穴山線L=300m							
	着手年度	平成30年度	事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完成年度(見込み)	平成32年度	費用対効果	7.7	国庫	その他	県債	一般財源	
	全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤工 1基			200,000	100,000	90,000	10,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家17戸、辰野町上水道施設、町道、林道の保全が図られる							
	間接的効果(定量的・定性的)	辰野町上下水道の保全により住民の安心な生活環境の改善に繋がる 土砂災害特別警戒区域の指定が解除される							
評価の視点	必要性	○保全対象人家：17戸 ○保全対象施設：浄水場、町道、林道 ○要配慮者利用施設：なし ○避難場所：なし						評価	B
	重要性	○災害履歴：H18.7月豪雨、H21.8月豪雨 ○交通遮断による地域経済への影響：町道、林道 ○地域防災計画への位置づけ：町の防災計画について位置づけあり						評価	B
	効率性	○費用対効果(B/C)：7.70 ○事業期間：3年間 ○工法等の比較検討：工法協議済み ○流域の総合調整：全体計画策定済み						評価	A
	緊急性	○流域の地形、地質：脆弱かつ過去に地すべり発生 ○流域の植生：放置林 ○土砂整備率：68.8% ○土砂災害防止法指定区域：特別警戒区域あり(浄水場)						評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有：H20説明会開催済み ○地域の取り組み：積極的な取り組みがある ○地域の合意形成：合意形成が図られている ○住民との協働：民参加型の事業(防災体制整備、維持管理等が直接参加)						評価	A
	所管課意見	当該渓流の保全対象には地域の重要な公共施設である水道施設が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要である。						採択状況	総合評価
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。								

位置図

流域概要

えん堤正面図  
61.0m  
9.0m

平成18年7月豪雨 土砂が流出し穴山川を埋塞、人家に土砂が流入

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	穴山川は、土石流危険渓流であり、平成18年7月豪雨時には土石流が発生し林道、下流人家および町の水道施設が被害を受けた。また、平成21年8月にも土石流が発生し、町の水道施設が被害を受けている。流域の地質は中～古成層の変成岩で風化により流出しやすい状況となっているうえ、溪岸浸食が進行しており、土砂が流出しやすい状況になっており、現在も土石流が発生する危険がある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成18年豪雨、平成21年豪雨と地元では被災を受けており、対策への要望は毎年出されている。
③事業説明等の経緯	平成20年に対策工事に関する全体計画の説明会がなされており、地元では早期完成を望んでいる。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	これまでに災害関連緊急砂防事業、特定緊急砂防事業などにより緊急に対応を行ってきており、本事業により全体計画で予定された施設が完成する。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	施設が整備され、安全安心な生活環境になる。
⑥地域活性化への影響と配慮	福寿草祭りをはじめとした地元の活動が活性化することが期待される。
⑦その他	なし

事業代表地点の緯度経度

北緯: N 35° 58' 40" 88  
東経: E 138° 02' 00" 06